



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

群馬県 太田市立旭中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**：渥美 万奈 先生 (ソフトボール) 【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**：2023年11月16日(木)

■ **ク ラ ス**：2年1組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・東京2020大会にソフトボール競技で出場したと自己紹介。運動の時間はチャレンジすること、友達と協力することを意識して取り組んでほしい。準備体操は、普段あまり意識することの少ない足の指先をしっかり動かしてから全身を動かしていく。その後、前後左右の声掛けと同時に両足を揃えて跳ぶ「言うこと一緒、やること一緒」を実施。掛け声と同じ方向に跳ぶ、掛け声と逆の方向に跳ぶ、掛け声も跳ぶ方向も逆にする、3つ動作にチャレンジする。

○主運動等



・主運動はボール送りリレーを実施(全3回)。班毎に後ろ向きで並び、頭の上からボールを後ろの人に送る。送ったら最後尾に走り、折り返し地点を回ってスタート地点に戻る。着順に得点を付け(1位6点～6位1点)、合計点数を競う。3回目は距離を5m長く伸ばし、ボールを送る際に頭上と股下を交互に繰り返すルールに変更し、得点も2倍にする。途中作戦タイムを設け、各班で工夫できることを考える。



・運動の時間を振り返り、作戦タイムで皆が真剣に話し合い、その作戦を実行しようと努力し、一生懸命取り組んでいた。特に班の仲間と協力できたことは素晴らしい。座学の時間は、自身のオリンピック出場時の経験を話し、オリンピックバリューについての理解を深めてもらいたい。皆の日常の中にオリンピックバリューを見つけてほしいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：渥美 万奈 先生 (ソフトボール) 【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**：2023年11月16日(木)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スライドを使用し自己紹介。獲得した金メダルと実際に使用したソフトボールを披露。金メダルは初めて携帯電話や小型家電をリサイクルして作られ、過去の大会の中で最も重いメダルだと説明。金メダルを獲得までには多くの困難を経験しながらも、大好きなソフトボール競技を続けられたのは、多くの人に支えられ助けられたおかげだ。皆も周りの人への感謝を忘れずに、後悔のない選択をしてほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に工夫したこと、挑戦したこと、協力できたことを書いてみよう。

発表：エクセレンス：「全部全力」「折り返し地点をスムーズに回るように工夫した」「楽しんで取り組む」「確実にボールを送る」等

フレンドシップ：「取りやすい位置にボールを送る」「声を掛け合う」「コミュニケーションを積極的に取った」等

リスペクト：「後ろの人が落とさないように確実にボールを送る」「皆でルールを守る」「思いやりを持ってボールを送る」等



・運動と座学の時間を振り返り、全力で取り組むことや諦めないこと、仲間のためにどう行動すべきかを考えること、そして一緒に取り組んでくれた仲間への感謝の気持ちを持つことはとても大切なことだ。すべてがオリンピックバリューに当てはまる。その中で1番伝えたいことは、何事にも挑戦してほしいということだ。苦手なことも逃げずに挑戦することで、新しい発見や気づきがある。自分の目標に向かって一生懸命頑張してほしいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：千田 健太 先生 (フェンシング)
【出場オリンピック／北京2008大会、ロンドン2012大会】
- **期 日**：2023年11月16日(木)
- **ク ラ ス**：2年2組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・北京2008大会とロンドン2012大会にフェンシング競技で出場したと自己紹介。運動の時間はオリンピックバリューを意識して取り組んでほしい。フェンシング競技に興味をもってもらいたいと話し、風船の付いた防具を生徒1名が着用し、その風船を剣で割ってみせるデモンストレーションを実施。準備運動はじゃんけんにも勝ったら次のポイントに進むゲームを実施後、フェンシング競技の基本の動きを説明。構えから前に1歩出るマルシェ、一歩後ろに下がるロンペを実践してみる。

○主運動等



・主運動はフェンシング競技の動きを取り入れたリレーを4回実施。1回目は広げた新聞紙を手で押しながら往復する。往路はマルシェ、復路はロンペで戻る。2回目はマーカーを頭の上に乗せ、落とさないようにマルシェとロンペで往復する。3回目と4回目は2人組で前後になり新聞紙を広げ、その上にバスケットボールを乗せて運ぶ。その際前方はロンペ、後方はマルシェで進む。各回、新聞紙やマーカー、バスケットボールを落としたら、その場で3回ジャンプするルールを設定。



・運動の時間を振り返り、皆の取り組む姿勢や班の仲間とのコミュニケーションはオリンピックバリューに結びついている。それは皆の生活に欠かせない大事な要素であり、それを活かすことでより良い生活を送ることができる。座学の時間は、オリンピックバリューについて自身の経験を話しながら、皆のオリンピックバリューを考える時間にしたいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：千田 健太 先生 (フェンシング)
【出場オリンピック／北京2008大会、ロンドン2012大会】
- **期 日**：2023年11月16日(木)
- **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スライドを使用し自己紹介。近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンはフランスの教育者であり、世界の平和を願いオリンピックを開催した。オリンピックシンボルの5つの輪は5大陸を表し、背景の白色と5色で世界中の国旗が描ける。フェンシング競技はフランス発祥のスポーツであり、フルーレ、エペ、サーブルの3種目がある。自身はロンドン大会に於いてフルーレ種目で団体銀メダルを獲得した。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：夢や目標を達成するために、日常生活や部活動の中で、オリンピックバリューをどのように活かせるか考えよう。
 発表：エクセレンス：「どんな練習も全力で取り組む」「日頃の練習からベストを尽くす」「自分のできることを一生懸命やる」等
 フレンドシップ：「1人で悩まず助け合う」「調子の良い人が悪い人をカバーする」「仲間と協力して学校行事に取り組む」等
 リスペクト：「失敗しても声を掛ける」「審判に敬意を払う」「友達の良いところを真似する」「感謝の気持ちでプレーする」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックは勝敗やメダルの数に注目されがちだが、オリンピックが生まれた背景を知り、オリンピックバリューについて学んだことで、オリンピックバリューはオリンピックに関わる人だけではなく、皆の日常生活にも深く結び付いていることに気付いたと思う。これからの学校生活の中でぜひ今日の学びを活かしてほしい。来年はパリ2024年大会もあるので、ぜひフェンシング競技にも注目してほしいと話し、授業終了。

- オリンピック：千田 健太 先生（フェンシング）
【出場オリンピック／北京2008大会、ロンドン2012大会】
- 期 日：2023年11月16日（木）
- ク ラ ス：2年3組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・北京2008大会とロンドン2012大会にフェンシング競技で出場したと自己紹介。オリンピックは世界平和の願いを込めて作られた大会でありオリンピズムやオリンピックバリューを大切にしている。風船の付いた防具を生徒1名が着用し、その風船を剣で割ってみせるデモンストレーションを実施。準備運動はじゃんけんに勝ったら次のポイントに進むゲームを実施後、フェンシング競技の基本の動きを説明。構えから前に1歩出るマルシェ、一歩後ろに下がるロンペを実践してみる。

○主運動等



・主運動はフェンシング競技の動きを取り入れたリレーを4回実施。1回目は広げた新聞紙を手で押しながら往復する。往路はマルシェ、復路はロンペで戻る。2回目はマーカーを頭の上に乗せ、落とさないようにマルシェとロンペで往復する。3回目と4回目は2人組で前後になり新聞紙を広げ、その上にバスケットボールを乗せて運ぶ。その際前方はロンペ、後方はマルシェで進む。各回、新聞紙やマーカー、バスケットボールを落としたら、その場で3回ジャンプするルールを設定。



・運動の時間を振り返り、オリンピックバリューは皆の日常生活の中に溢れている。運動の時間に感じたことを、普段の生活にも活かしてほしい。座学の時間は、運動の時間の経験を踏まえ、皆がこれからどんな行動や意識をすることで、楽しい学校生活や友達との関係を築けるか等を、オリンピックバリューに結びつけて考える時間にしたいと話し、授業終了。

- オリンピック：千田 健太 先生（フェンシング）
【出場オリンピック／北京2008大会、ロンドン2012大会】
- 期 日：2023年11月16日（木）
- ク ラ ス：2年3組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・映像を見てフェンシング競技の説明とスライドを使用し自己紹介。ロンドン2012大会のフルール種目で銀メダルを獲得した団体戦は、3対3で試合を行い合計45点を取った国が勝利する。試合では選手個人の調子が良い時や悪い時もあり、それを仲間同士でカバーし合い、支え合いながら戦うと説明。フェンシング競技を始めた当時は、左利き用の剣を使いこなすために、右利きだったが左手を使う練習をたくさんしたり、身長の高い選手と戦うために戦い方を工夫し努力した。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：夢や目標を達成するために、日常生活や部活動の中で、オリンピックバリューをどのように活かせるか考えよう。
 発表：エクセレンス：「練習あるのみ」「何事も諦めずに100回挑戦する」「何事もベストを尽くす」「良い勉強方法を考える」等
 フレンドシップ：「自分の足りない点を補う」「自分がない考えを学び新たな視点を持つ」「お互いに必要な存在になる」等
 リスペクト：「仲間にも相手にも感謝の気持ちを持つ」「フェアプレー」「高め合う」「全ての人に感謝する」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューについて真剣に考え、それを皆で話し合うことで、オリンピックバリューが身近にあることを感じたと思う。引退した今でもオリンピックバリューを大切にしている。3つの言葉を忘れずに、日々意識することで人間として成長でき、人生がより豊かになる。生きる上で大切な哲学だと思う。皆もこれからの学校生活や夢や目標に向かって頑張ってもらいたいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■集合写真

・2年3組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



■修了証贈呈

